

弓ヶ浜一帯 10月開業へ 上天草市にワーケーション用リゾート 藍の村観光社長 藤川護章さん【ニュースインタビュー】

熊本日日新聞 | 2022年01月26日 11:42

旅先で余暇を楽しみながら仕事もする「ワーケーション」。藍の村観光（熊本県上天草市）は、同市大矢野町上地区の市有地で新たなリゾート施設の整備を目指している。今秋の一部開業を予定する藤川護章社長（48）に事業計画や狙いを聞いた。（松富浩之）



藍の村観光がワーケーション用リゾート施設の整備を計画する有明海に面した上天草市有地=同市

ー施設の概要や整備スケジュールは。

「有明海に面した弓ヶ浜一帯に広がる市有地（約8千平方メートル）を活用する。10月のオープンを目指し、南国リゾート風の宿泊用コテージ（木造平屋で床面積30～40平方メートル）を10棟ほど建てる。来年春を目標にメイン施設の管理棟（鉄筋コンクリート2階建て）を建設。シェアオフィスや会議室のほか、カフェやサウナなども備えたい。海側には風景とプールの境目が分からないようにしたインフィニティ・プールを設け、リゾート&スパのようなイメージにしたい」

「管理棟までの1期工事で投資額は約5億～6億円を見込む。資金は国の事業再構築補助金（6千万円）や金融機関の融資、自己資本で賄う。2期工事では、12室程度を想定したメゾネットタイプの宿泊棟を整備。3期工事まで数年をかけて完成させたい」

ー新型コロナウイルス禍を機にリモートワークが広がり、ワーケーションへの注目も高まっています。

「企業に多様な働き方の導入が求められる中、オフィスと宿泊施設を一体化した新しいサービスを提案したい。旅行会社だけでなく、さまざまな企業法人に営業活動する。いかに上天草のポテンシャルを生かし、ビジネスパーソンという新たな客層を取り込めるかにかかっている」

ー地域連携型ワーケーションを目指していますが。

「1週間程度の連泊需要を促し、市内のいろいろな飲食店や体験メニューの利用に加え、セミナー開催の他施設への誘導などによって地域全体の活性化を図りたい。ビーチが隣にあり、島原半島や雲仙・普賢岳を眺望できる。近くに洞窟温泉の宿もあり、このエリアのにぎわいを復活させられるといい」

「理想を実現し、お客さんの満足度を高められるかが鍵。上天草が移住や多拠点生活の候補地となるよう、市全体の通信環境整備を行政に期待している。ワークとバケーションの両軸を一体化し、新たな顧客の創造へ挑戦していく」



◇ふじかわ・もりあき 旧大矢野町（現上天草市）出身。大学卒業後、会社員などを経て2011年から現職。観光施設の「藍のあまくさ村」や「リゾートテラス天草」を運営し、売上高（21年3月期）は約10億5千万円。従業員約70人。熊本市在住。